

# 教えて！ ドクター Q&A

(株)宣通 (052)979-1602 広告

**Q** 年齢とともに白内障が心配です。どのような症状が出たら受診すべきか、また手術はどのような場合に行うのでしょうか？

**A** 年齢を重ねると、見え方の変化に戸惑うこともあるかと思えます。白内障は、目の中でレンズの役割をする水晶体が白く濁る病気で、加齢とともに多くの方にみられます。受診の目安としては、視界がかすむ、光がまぶしい、眼鏡を替えても見えにくい、物が二重に見える、といった変化です。

白内障と診断されても、すぐに手術が必要になるわけではありません。初期には点眼で進行をゆるやかにしながら

経過を見ます。手術を考える時期には明確な基準はなく、「新聞が読みにくい」「運転に不安を感じる」など、日常生活での不便さが目安になります。

また、年に一度は眼科で視力や眼圧、眼底などの検査を受けておくと、白内障だけでなくほかの目の病気の早期発見にもつながります。

手術は、濁った水晶体を取り除き人工のレンズに置き換えるものです。現在は日帰りで行われることも多く、麻酔による痛みへの配慮もあり、体への負担は少なくなっています。見えにくさを感じたときは我慢せず、主治医と相談してみてください。

1996年三重大学医学部卒業。2004年名古屋大学大学院修了。国立名古屋病院(現・名古屋医療センター)眼科レジデント、豊橋市民病院眼科部長、名古屋大学医学部附属病院眼科医局長、眼科三宅病院副院長などを歴任し、2021年に開業。これまでに培った技術や経験と先進の機器を生かし、患者の目を救うことをめざす。



院長 浅見 哲  
(浅見眼科手術クリニック)